

配筋標準図 (1)

1. 一般共通事項

(1) 鉄筋の表示記号

鉄筋の断面表示は下記の記号による。

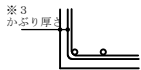
鉄筋径	D10	D13	D16	D19	D22
表示記号	●	✕	■	●	○
鉄筋径	D25	D29			
表示記号	⊙	⊠			

(2) 鉄筋のかぶり厚さ

構造部分の種類		かぶり厚さ (mm)	
		基本仕様	
土に接しない部分	屋根スラブ	屋内	30
	床スラブ 非耐力壁	屋外	仕上あり 30
		仕上なし	40
	柱	屋内	40
		屋外	仕上あり 40※4
	梁	仕上なし	50
土に接する部分	耐力壁		50
	柱、梁、床スラブ、壁 基礎、擁壁		50 70

(注)

- 上記のかぶり厚さは、溶接金網にも適用する。ただし、ひびわれ誘発目地部などかぶり厚さが部分的に減少する箇所、防錆処理を課じた場合は除外する。
- 仕上ありとは、モルタルやタイル等の仕上げで、合計仕上げ厚さが20mm以上ある場合をいう。
- かぶり厚さとは、最外側鉄筋面からの寸法とする。
- D38使用の場合は、50mmとする事。
- かぶり厚さの許容値は、上記の値-10mmとする。

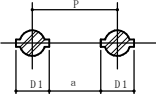


(3) 鉄筋の最小間隔とあき

鉄筋相互のあきは下記のうち最大のものとする。

- a ≧ 25mm
- a = 1.25x 粗骨材最大寸法
- a = 1.5d (d : 鉄筋の呼び名の数値)

鉄筋の間隔 P = a + D1 (D1 : 最外径)



鉄筋径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38
D1	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43
a	32	32	32	32	33	38	44	48	53	57
P	43	46	50	53	58	66	77	84	93	100

(注)

- 上記の表は、粗骨材最大寸法25mmの場合を示す。
- *印は粗骨材によって間隔が決定されたものを示す。

(4) 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

○ 端部 (フック形状)

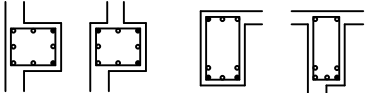
曲げ角度	図	鉄筋の種類	鉄筋径	内径 (D)	余長 (L)
180°		SD295A SD295B SD345	D16以下	3d 以上	4d 以上
			D19 D38	4d 以上	
		SD390		5d 以上	
135°		SD295A SD295B SD345	D16以下	3d 以上	6d 以上
			D19 D38	4d 以上	
		SD390		5d 以上	
90°		SD295A SD295B SD345	D16以下	3d 以上	8d 以上
			D19 D38	4d 以上	
		SD390		5d 以上	

設計図に特記のある場合以外は、下記鉄筋の末端部にフックを設ける事。

180°	135°	90°
・柱及び梁の出隅部分※1 (基礎梁を除く) ・煙突の主筋 ・最上階柱4隅	・フープ ・副フープ ・スターラップ ・中スターラップ	・U字形スターラップ のキャップタイ ・幅止め筋 ・片持スラブ上端筋の先端※2

(注)

- 柱、梁の出隅部分鉄筋は、●印をいう。(重ね継手の場合)



- 片持スラブ上端筋の先端、壁の自由端に用いる先端は、余長4dとする。

○ 中間部 (ベンド)

曲げ角度	図	使用箇所	鉄筋の種類	鉄筋径	内径 (D)
90°以下		フープ スターラップ スパイラル筋	SD295A SD295B SD345	D16以下	3d 以上
				D19 D38	4d 以上
		上記以外の鉄筋	SD295A SD295B SD345 SD390	D16以下	4d 以上
				D19 D25	6d 以上
				D29 D38	8d 以上

(5) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ

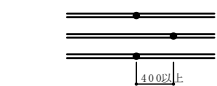
鉄筋の種類	コンクリートの設計 基準強度の範囲 (N / mm ²)	重ね継手 長さ L1	定着の長さ		
			一般	下 端 筋	屋根 床スラブ
SD295A SD295B SD345	36 ≧ Fc ≧ 27	35d (25d)	30d (20d)		
	27 > Fc ≧ 21	40d (30d)	35d (25d)		
	27 ≧ Lc ≧ 21				
	21 > Fc ≧ 15 21 > Lc ≧ 15	45d (35d)	40d (30d)	25d (15d)	10d かつ 150mm 以上
SD390	36 ≧ Fc ≧ 27	40d (30d)	35d (25d)		
	27 > Fc ≧ 21	45d (35d)	40d (30d)		
	27 ≧ Lc ≧ 21				

(注)

- () 内は、フック付長さを示す。
- 径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い鉄筋の呼び名 (d) による。
- 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない。
- D29以上の鉄筋は、抗筋を除き原則として重ね継手としてはならない。

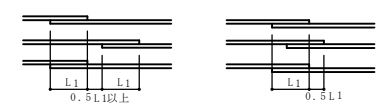
(6) 鉄筋の継手

○ ガス圧接継手



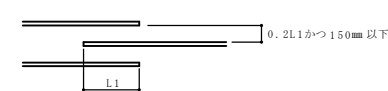
(注) 鉄筋径の差が7mmを超える場合は圧接してはならない。

○ 重ね継手



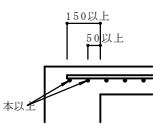
(注) フック付きの場合も同様とする。

○ あき重ね継手 (スラブ筋、壁筋のみ)

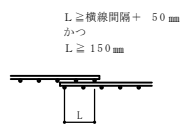


(7) 溶接金網の定着と重ね継手

○ 定着



○ 継手



(8) そ の 他

○ 打ち継ぎ

- 打ち継ぎ部の位置・形状などは特記による。特記のない場合、梁、床スラブおよび屋根スラブでは、その中央付近に、柱および壁では、床スラブ、基礎の上端または梁の下端に設け、水平または垂直とする。
- 打ち継ぎ部は、レイタンスおよび弱いコンクリートを取り除き、健全なコンクリート露出させ、コンクリート打ち込み前に十分な水湿を行なう。
- 打ち継ぎ目地は 各階に設ける。その他は収縮目地に同じとする。。

○ コンクリートの打ち増し

- 外壁の打ち増し : 外壁を形成する柱・梁・壁は、外部側に厚さ (15) mmの打ち増しとする。
- 床モノリシック工法の打ち増し : () mmとする。
- 土中部の打ち増し : 土に接する部分の柱・梁・壁は、土側に厚さ () mmの打ち増しとする。

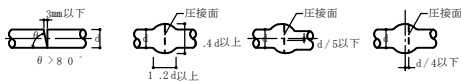
○ 壁およびスラブ内の電気配管

- 埋め込み配管は極力少なくし、かつダブル配管の内側へ配管のこと。
- 配管外径 (φ) は、スラブ厚さの1/4以下とする。
- 配管のコンクリートかぶり厚さは、30mm以上とする。
- 配管相互のあきは、下記のうち最大のものとする。
 - L ≧ 25mm
 - L ≧ 粗骨材最大寸法 × 1.25
 - L ≧ 1.5φ

○ 鉄筋の溶接形状



○ ガス圧接形状



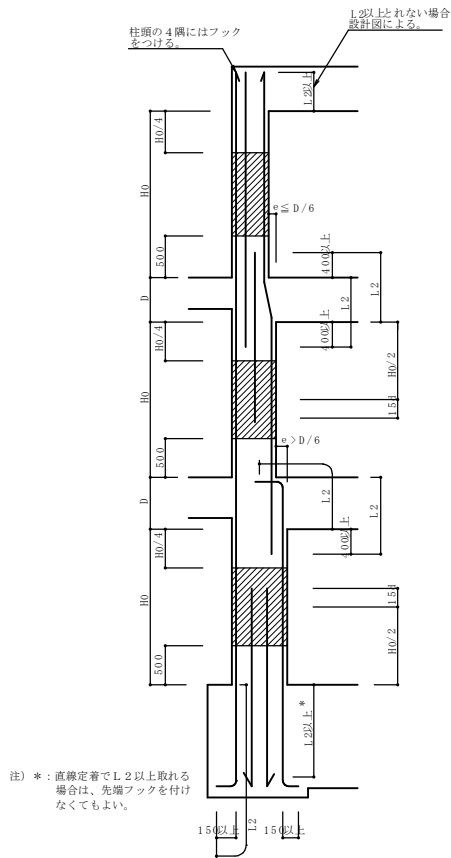
鉄筋の余長、重ね継手長さ及び定着長さの換算表 (mm)

鉄筋径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38
4d	40	60	70	80	90	100	120	130	140	160
5d	50	70	80	100	110	130	150	160	180	190
6d	60	80	100	120	140	150	180	200	210	230
8d	80	110	130	160	180	200	240	260	280	310
10d	100	130	160	190	220	250	290	320	350	380
15d	150	200	240	290	330	380	440	460	530	570
20d	200	260	320	380	440	500	580	640	700	760
25d	250	330	400	480	550	630	730	800	880	950
30d	300	390	480	570	660	750	870	960	1,050	1,140
35d	350	460	560	670	770	880	1,020	1,120	1,230	1,330
40d	400	520	640	760	880	1,000	1,160	1,280	1,400	1,520
45d	450	590	720	860	990	1,130	1,310	1,440	1,580	1,710

2. 柱

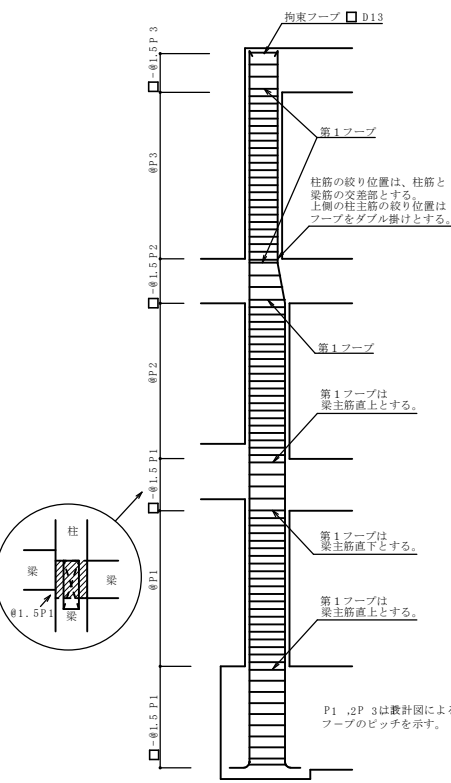
(1) 柱筋の余長・定着及び継手位置

主筋の継手可能位置を示す。



(注) * : 直線定着でL2以上取れる場合は、先端フックを付けてなくてもよい。

(2) フープの割付け



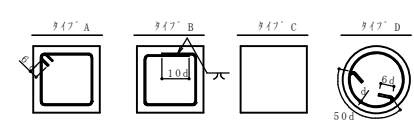
(注)

- 原則として、仕口部分には、副フープを入れなくてよい

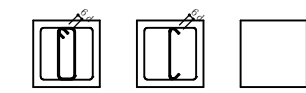
(3) フープの形状

○ 一般形状

特記なき限り タイプ A を使用する。

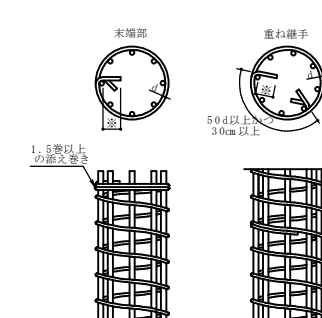
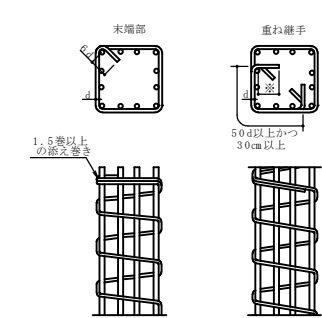


○ 副フープ形状

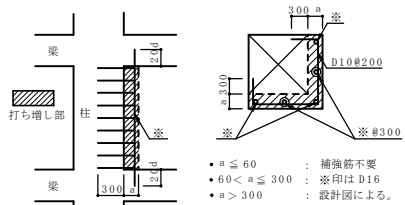


(注) フックの位置は上下同一の箇所に集中しない事。

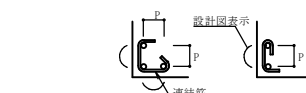
○ スパイラルフープの形状



(4) 柱打ち増し部補強筋



(5) きかし筋 (二段筋)



(注)

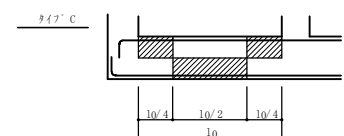
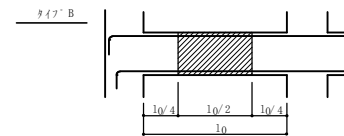
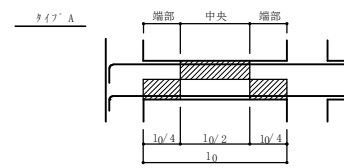
Pは 1 - (3) 鉄筋の最小間隔による。連結筋は 60φ1500かつ各階2箇所以上とする。

3. 梁

(1) 梁筋の継手位置

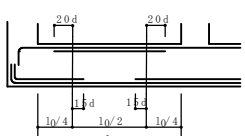
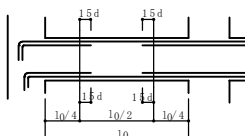
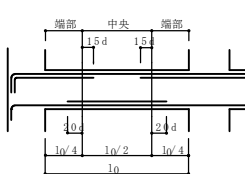
主筋の継手可能位置を示す。

特記なき限り 大梁は タイプ A を使用する。
小梁は タイプ A を使用する。
基礎梁は タイプ B を使用する。
基礎小梁は タイプ A を使用する。



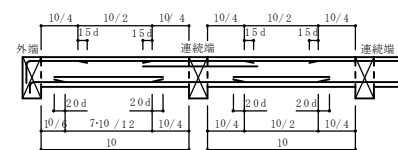
(2) 梁筋の余長

○ 大梁、基礎梁

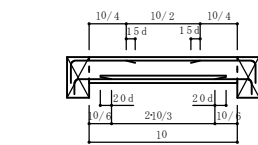


○ 小 梁

a . 連続梁の場合



b . 単スパン梁の場合



(3) 定着

○ 柱への定着

a. 梁の定着

外端部の場合

〔一般階〕

〔最上階〕

$L2 = L2 + 5d$

(注) 1. 折り曲げ起点は柱中心線をこえた位置とする。 柱幅が大きい場合

2. 柱幅が大きくて、直線部だけでL2がとれる場合でも柱中心線をこえて中間折り曲げ扱いでテール長150以上とする。

連続端部の場合

〔最上階・一般階〕

〔柱幅〕

b. 基礎梁の定着

〔一般の場合〕

〔ベタ基礎、布基礎〕

(注) 1. 折り曲げ起点は柱中心線をこえた位置とする。

c. 段差のある場合

$e \leq D/6$ の場合

〔鉛直くい違いの場合〕

〔水平くい違いの場合〕

$e > D/6$ の場合

〔一般階〕

〔最上階〕

$L2 = L2 + 5d$

〔最下階〕

$L2 = L2 + 5d$

d. 片持梁と連続する場合

〔一般階〕

〔最上階〕

$L2 = L2 + 5d$

※印の梁の主筋は半数以上を折曲げて定着させる事。

a. 一般の接合の場合

拵て筋を流して結束

A = A' 矢視

斜めに定着してもよい

斜めあるいは水平定着としてよい

1/2B

(注※は、大梁の場合 L2 と読み換える。

b. 段差のある場合

$e \leq B/6$ の場合

$e > B/6$ の場合

(注) e は水平くい違いの場合にも準ずる。

c. 打ち増し部への定着

打ち増し部分を示す。

d. 先端小梁の外端部片持梁への定着

先端小梁 (頭つなぎ梁)

片持梁筋 折り下げ

L

片持梁

L: 上端筋 L2
下端筋 L3

(水平断面)

① 一般の梁と連続する場合

② 一般の梁と連続しない場合

Figure 10 consists of two diagrams, (a) and (b), illustrating the relationship between the length of the main member (L) and the length of the branch member (L_2) for different values of the angle θ .

Diagram (a) shows the case where $\theta / \alpha \leq 1 / 6$. The main member has a length L and the branch member has a length L_2 . The branch member is attached to the main member at an angle θ . The diagram shows the geometry of the joint and the relationship between the lengths L and L_2 .

Diagram (b) shows the case where $\theta / \alpha > 1 / 6$. The main member has a length L and the branch member has a length L_2 . The branch member is attached to the main member at an angle θ . The diagram shows the geometry of the joint and the relationship between the lengths L and L_2 . The relationship is given by the equation:

$$L_2^* = L_2 + 5d$$

第1スターラップ
(柱コンクリート面)

⑥ P

P以下

第2スターラップ
(柱コンクリート面)

⑥ P

P以下

⑥ P

P以下

つり上げ筋

つり上げ筋

つり上げ筋：スタラップ間隔、2本巻とする。

※小梁の接合部は腹筋を 通さなくても良い。

梁 成	$D < 600$	$600 \leq D < 900$	$900 \leq D < 1,200$	$1,200 \leq D < 1,500$
腹 筋	不 要	2 - D10	4 - D10	6 - D10

○ 一般形状

A B C D

(注) 1. 原則として、Aとする。スラブと同時に打ち込むT形梁の場合は、B、C。
L形梁の場合は、Cとすることができる。
2. Aの場合フックの位置は、原則として交互配筋とする事。

○ 副スタースラップ

A B C

(注) 1. 原則として、AまたはBとする。スラブと同時に打ち込むT形およびL形梁の場合は、Cとすることができる。
2. フックの位置は、原則として交互配筋とする事。

[illegible]

筋は打ち増し部を跨す。

⑨ 上部打ち増し

⑩ 側部打ち増し

※印は軸方向補強筋を示す。

- ・ $a \leq 60$: 補強筋不要
- ・ $60 < a \leq 300$: D16#250
- ・ $a > 300$: 主筋と同径#250

(9) 二段筋

(1 0) 柱面と梁面が同一になる場合の納まり

(平面)

(断面)

(注) Pは1-(3)鉄筋の最小間隔の項による。

※柱主筋だけだスターアップ筋筋を挟めて加工する事。

[illegible]

スラブへの定着

壁端部の定着

a. 耐力壁 (EW, RW) の場合

開口補強筋

又は

壁筋と同径・同間隔

b. 非耐力壁の場合

土圧壁筋 (RW) の定着及び継手位置

a. 梁への定着

* 地下外壁の外側鉄筋を基礎梁に定着する場合、定着長さは規定長さでよいが、鉄筋位置確保の為、約1mごとに耐圧スラブの上端まで下げる事。

土圧壁筋（RW）の継手位置

壁筋の継手可能位置を示す

○ 耐力壁 (EW, RW) の開口補強

(注) 1. $e \leq 200$ の場合は、破線 (---) で示した 補強筋は不要とする。
 2. 斜筋は壁配筋表を優先とする。

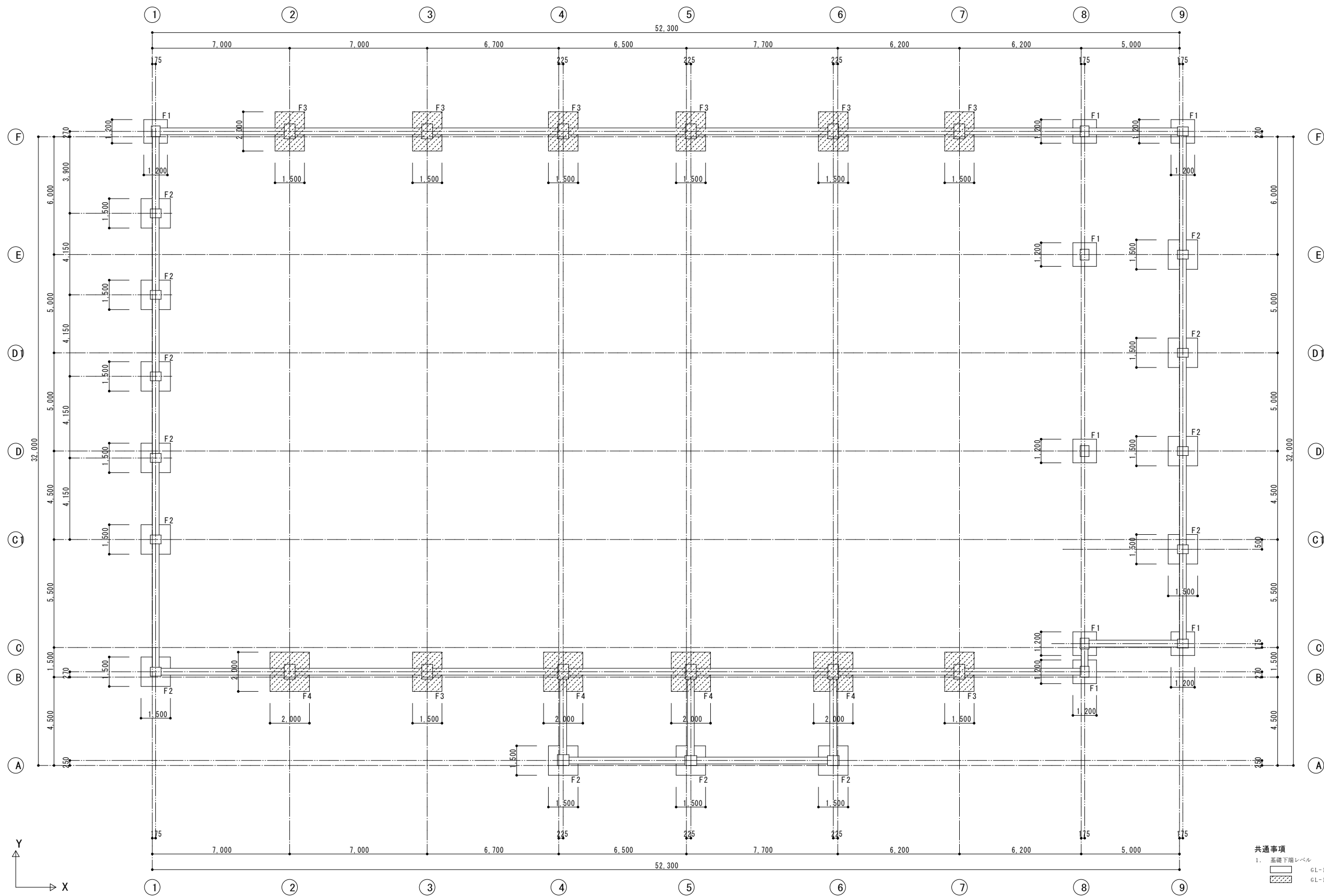
(3) 外壁 収縮 (誘発) 目地

外壁収縮 (誘発) 目地は、破目地 3.0m ピッチ程度に設ける。

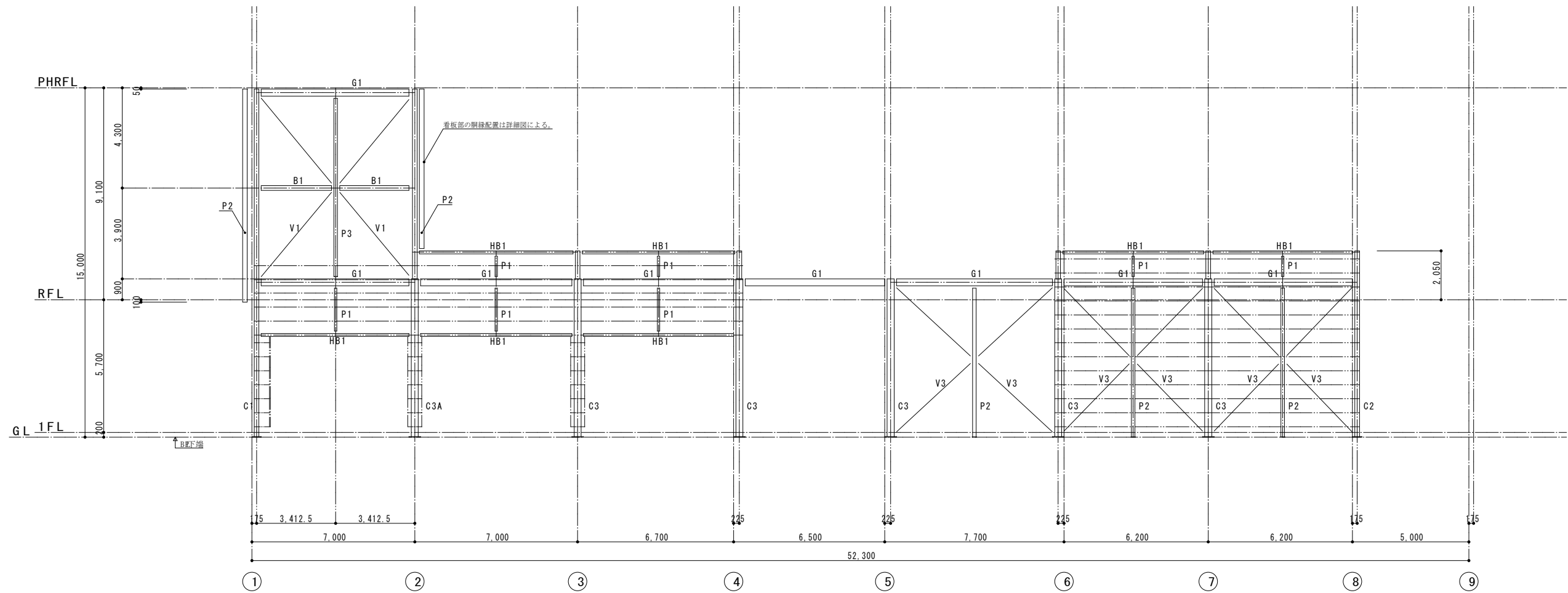
内目地を設けられない場合、および、ふかし厚が 2.0mm を超える場合には、収縮目地の断面欠損率は、ふかしを含めた壁厚の 2.0% 以上とする。

[illegible]

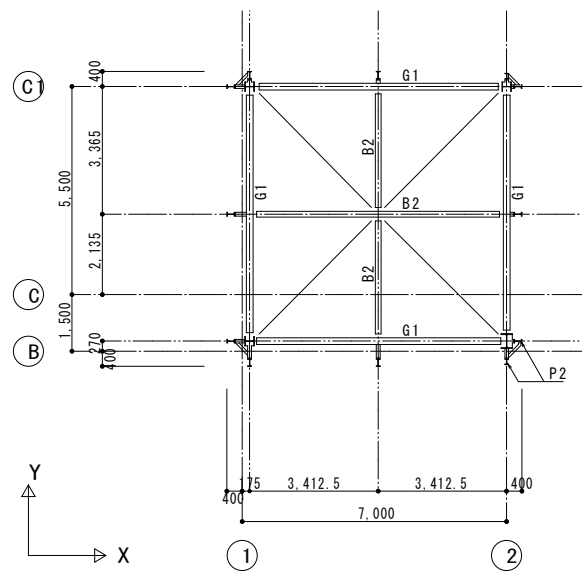
t	a	b	c	d	e	備 考
150	20 以下	20	15	20 以上	20	
180	20 以下	20	20	20 以上	25	
200	20 以下	20	20	20 以上	25	



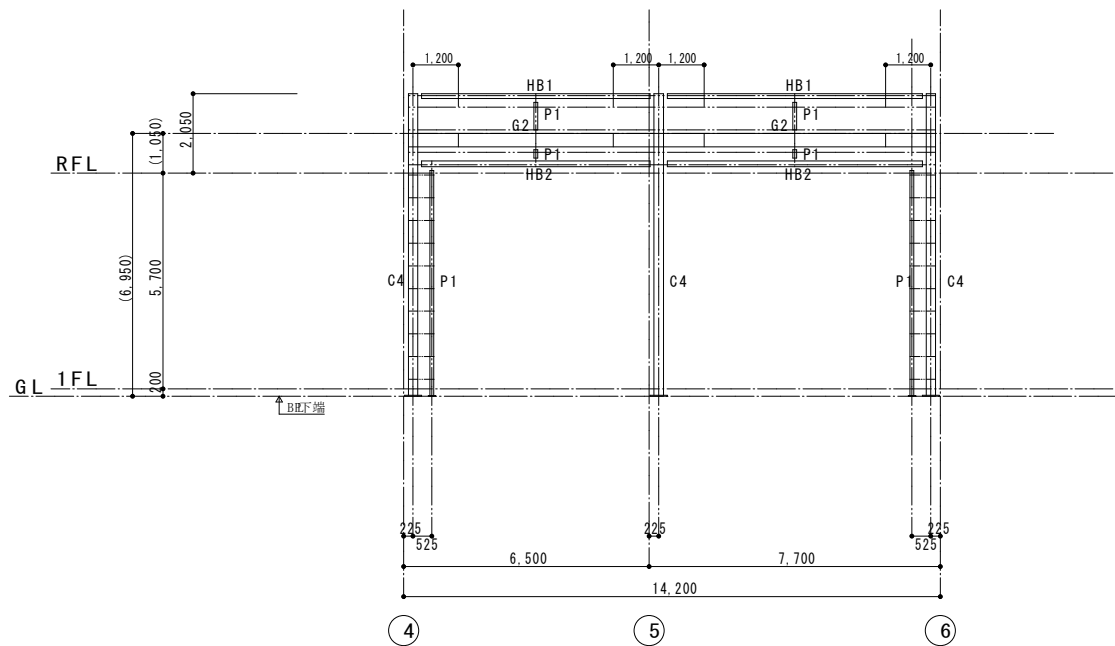
記事	承認	調査	担当	製図	年月	縮尺	工事名称	(仮称) ワンダーグー千代田店新築工事	No.
					03.05.28	S=1:100			S
							図面名称	基礎伏図	5



B通り軸組図 1:100



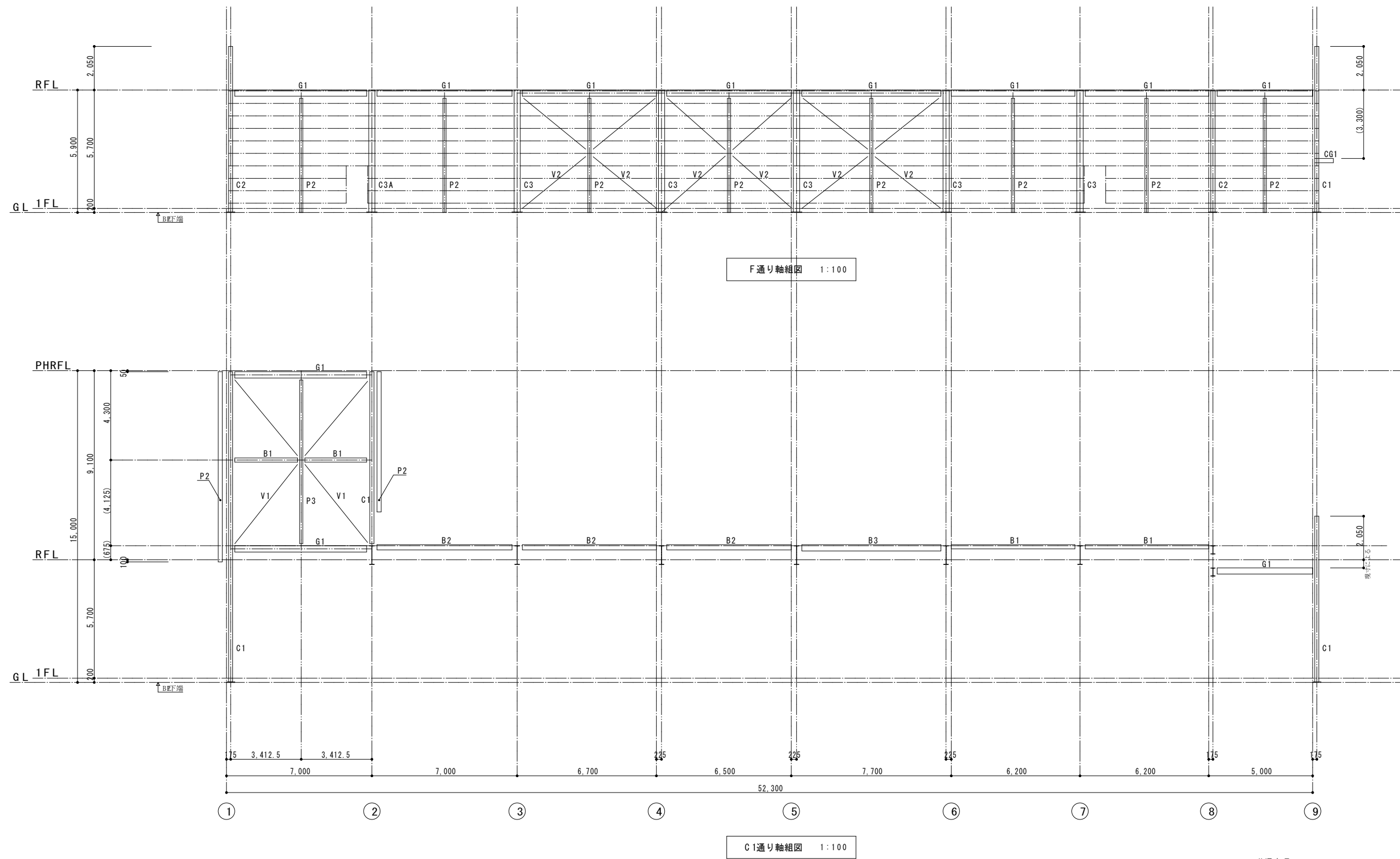
P H R 階伏図 1:100



A通り軸組図 1:100

- 共通事項 特記なき限り下記による。
- () 内の寸法は意匠納りおよび現寸により決定する。
 - 鋼線は以下とする。
C-100x50x20x2.3 6600
2C-100x50x20x2.3

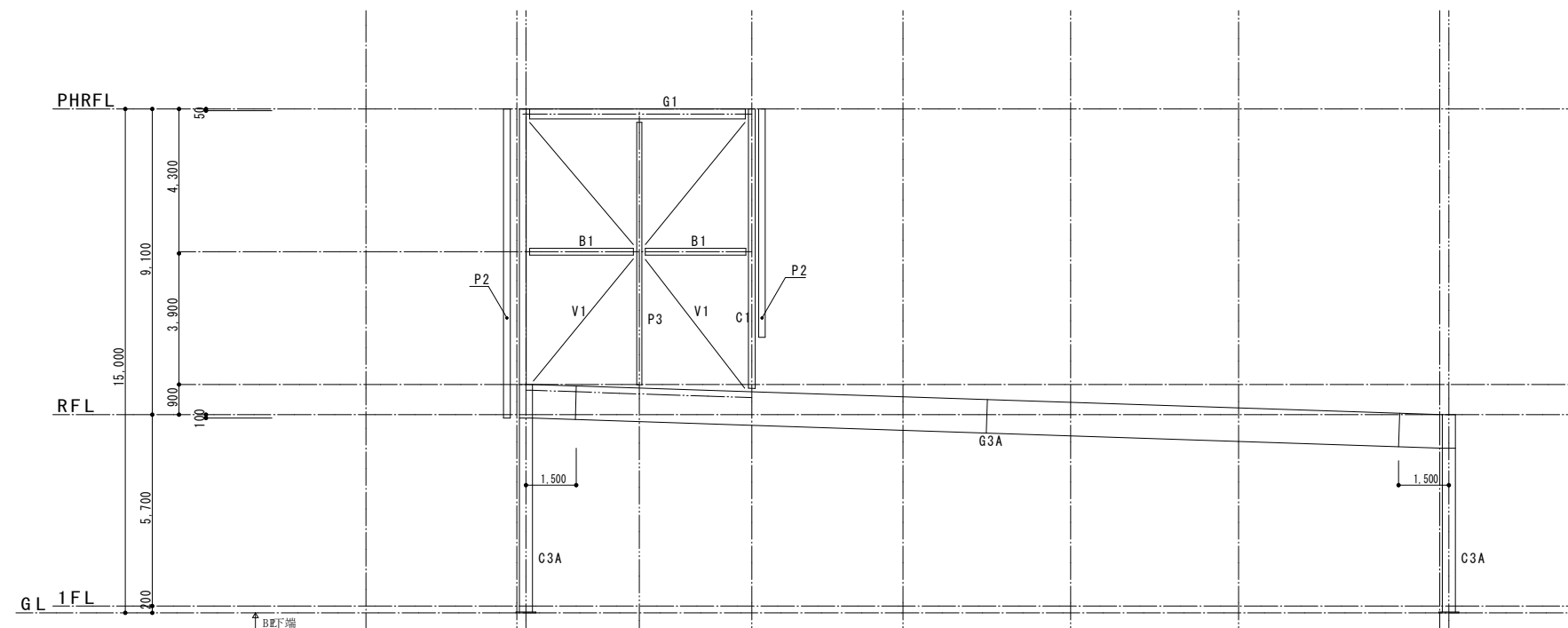
記事	承認	調査	担当	製図	年月	縮尺	工事名称	NO.
					03.06.02	S=1:100	(仮称) ワンダーグー千代田店新築工事	S
							図面名称	8



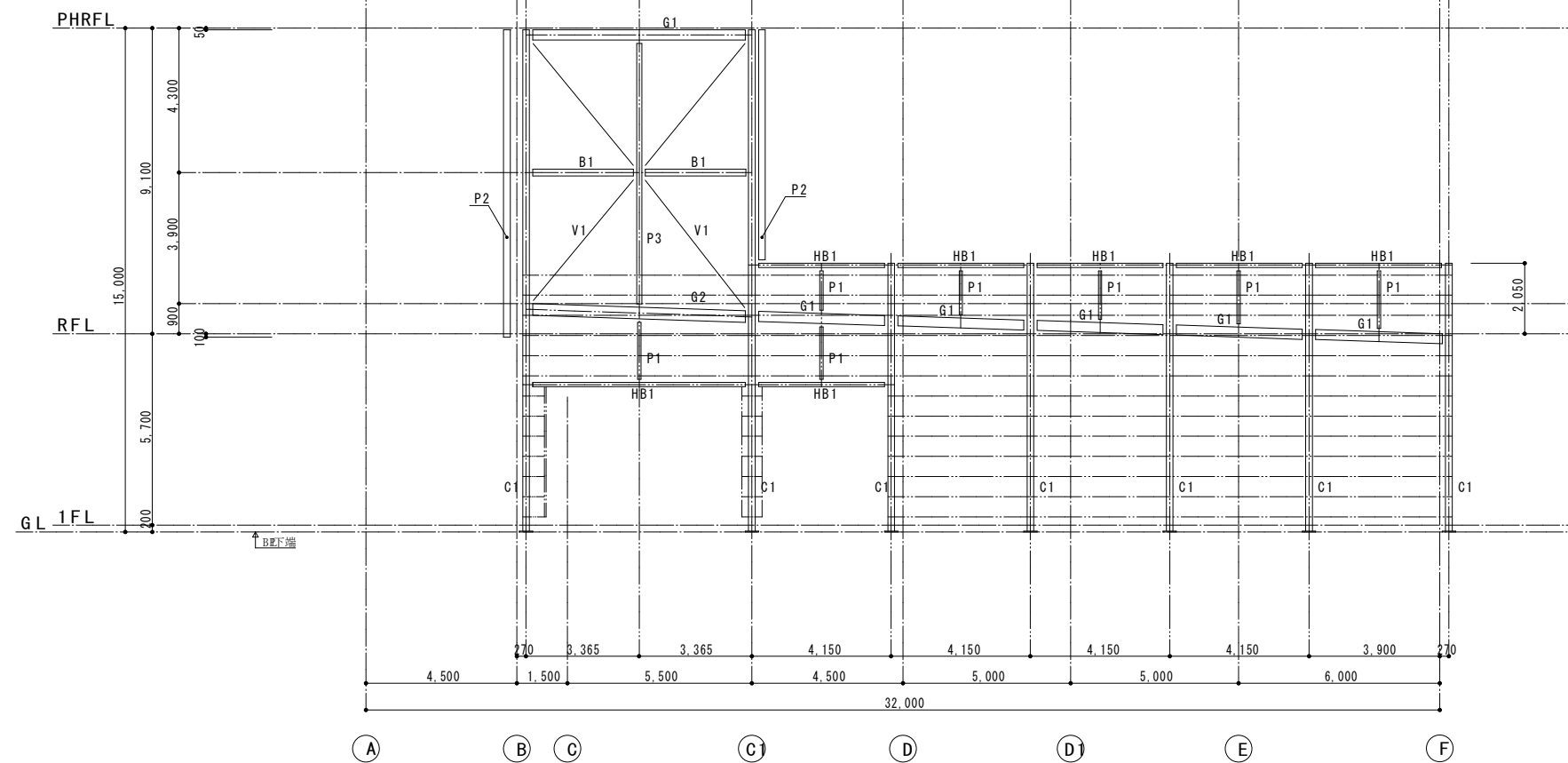
- 共通事項 特記なき限り下記による。
1. () 内の寸法は意匠納りおよび現寸により決定する。
2. 網線は以下とする。
- C-100x50x20x2.3 鋼600
- ===== 2C-100x50x20x2.3

記事	承認	調査	担当	製図	年月	縮尺	工事名称	NO.
					03.05.28	S=1:100	(仮称) ワンダーグー千代田店新築工事	S
							図面名称	9

軸組図 (2)



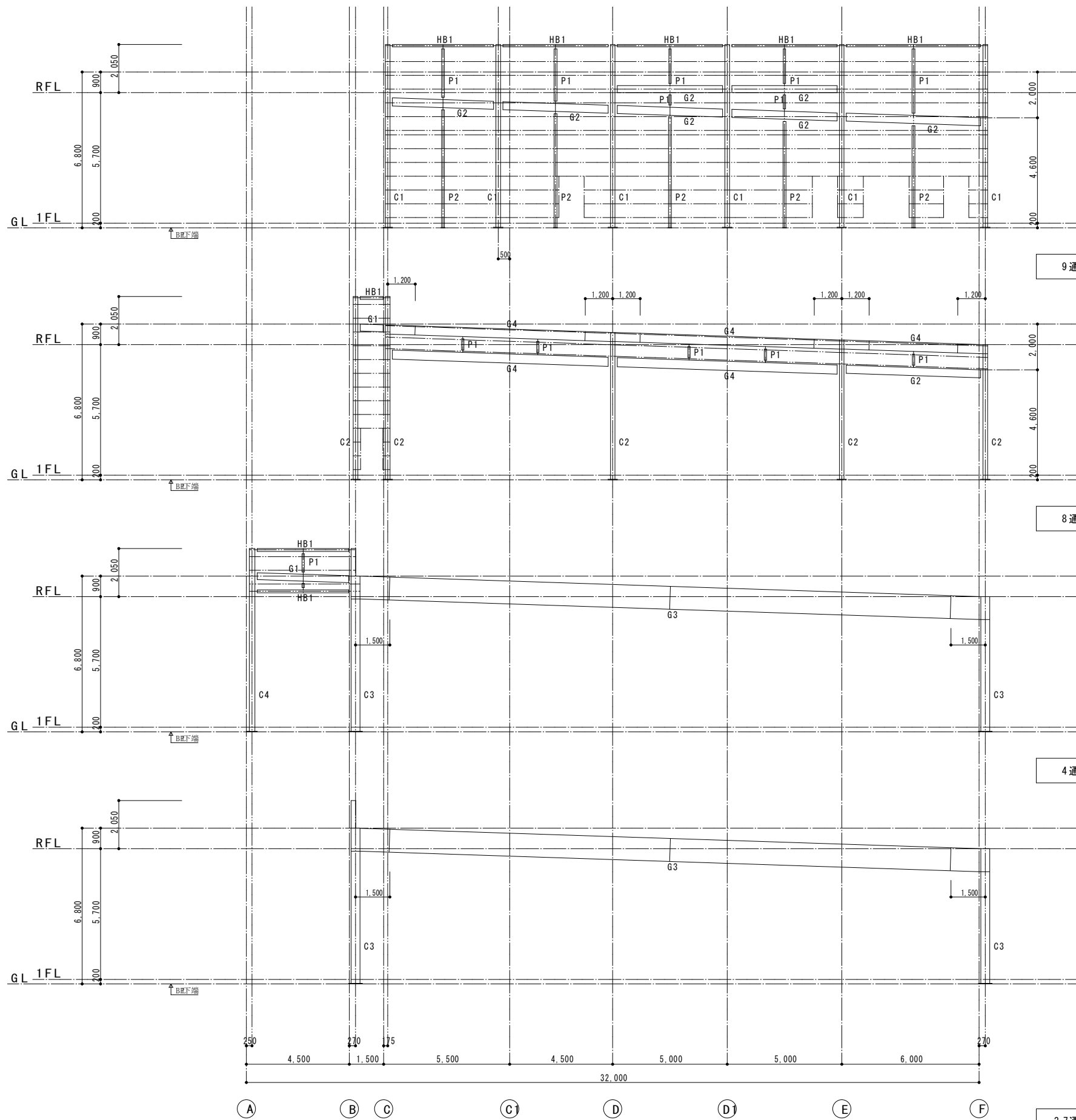
2通り軸組図 1:100



1通り軸組図 1:100

- 共通事項 特記なき限り下記による。
- () 内の寸法は意匠納りおよび現寸により決定する。
 - 網線は以下とする。
C-100x50x20x2.3 6600
2C-100x50x20x2.3

記事	承認	調査	担当	製図	年月	縮尺	工事名称	NO.
					03.05.28	S=1:100	(仮称) ワンダーグー千代田店新築工事	S
							図面名称	軸組図 (3)



9通り軸組図 1:100

8通り軸組図 1:100

4通り軸組図 1:100

5通り軸組図 1:100

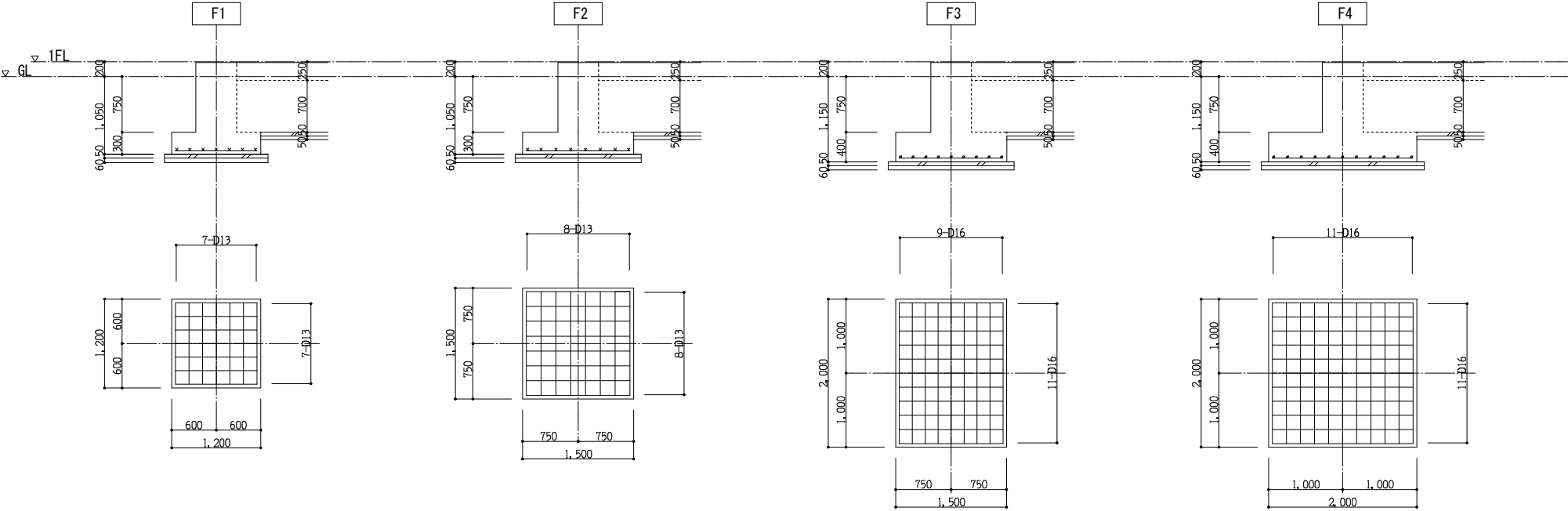
6通り軸組図 1:100

3,7通り軸組図 1:100

共通事項 特記なき限り下記による。
1. () 内の寸法は意匠納りおよび現寸により決定する。
2. 網線は以下とする。
C-100×50×20×2.3 鋼600
2C-100×50×20×2.3

記事	承認	調査	担当	製図	年月	縮尺	工事名称	NO.
					03.06.11	S=1:100	(仮称) ワンダーグー千代田店新築工事	S
							図面名称	軸組図 (4)

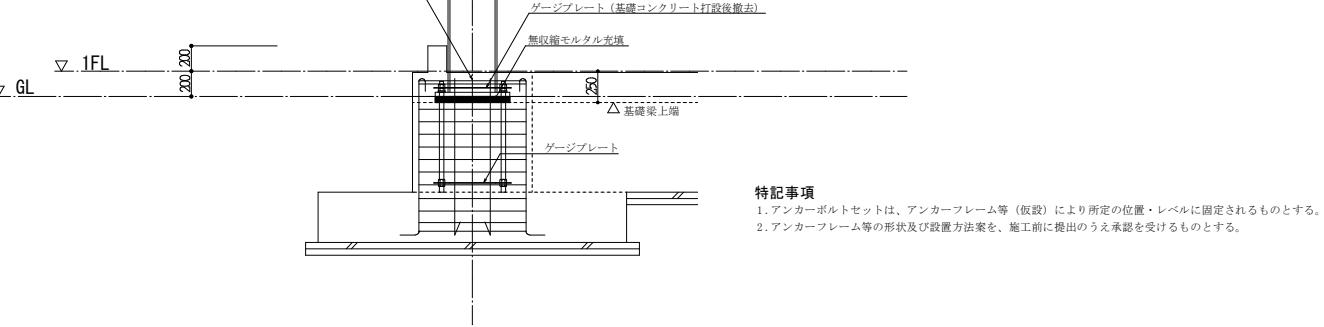
基礎詳細図 1:40



基礎梁断面表 1:30

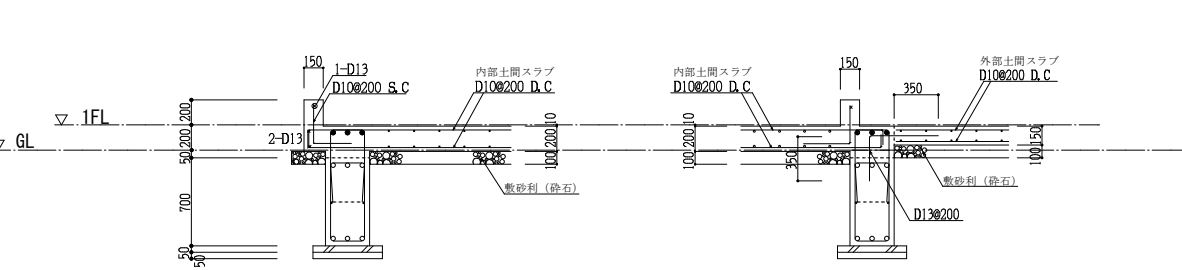
符 号	FG1	FG2		共通事項
位 置	全断面	全断面		特記なき限り下記による。
断 面				1. b x D 2. 巾止筋 D10@1,000 3. ふかし補強 n-D19 b=300~350 : n=3 b=400 : n=4 a≤300 あばら筋と同様、同ピッチ
b x D	350 x 700	350 x 700		
上端筋	3-D22	3-D19		
下端筋	3-D22	3-D19		
あばら筋	□ D10@200	□ D10@200		
腹 筋	2-D10	2-D10		

礎柱配筋図 1:30



特記事項
1. アンカーボルトセットは、アンカーフレーム等（仮設）により所定の位置・レベルに固定されるものとする。
2. アンカーフレーム等の形状及び設置方法を、施工前に提出のうえ承認を受けるものとする。

立上り壁・土間スラブ配筋詳細図 1:30



大梁・小梁断面表 1:30

符 号	G1	G2	G3	G3A	G4	CG1	B1	B2	B3	T1	HB1	HB2	胴縁・もや	折版受け	共通事項
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	特記なき限り下記による。
PHRF															1. 鉄骨材質 H,BH : SS400 C : SSC400
鉄 骨	H-298×149×5. 5×8							H-248×124×5×8							
RF															
鉄 骨	H-298×149×5. 5×8	H-346×174×6×9	BH-1000×220×12×19	BH-1000×220×12×22	H-400×200×8×13	H-200×100×5. 5×8	H-200×100×5. 5×8	H-248×124×5×8	H-298×149×5. 5×8	2C-100×50×20×2. 3	H-198×99×4. 5×7	H-248×124×5×8	C-100×50×20×2. 3	C-100×50×20×2. 3	

柱断面表 1:30

符 号	C1	C2	C3	C3A	C4		共通事項
RF							1. 鉄骨材質 H : SS400 BH : SS400 C : SN490B 2. アンカーボルト SNR490B 3. ブレースが取合う柱脚のガセットプレートは、鉄骨詳細図による。 4. リブプレート形状は、以下とする。
鉄 骨	H-200×200×8×12	H-200×200×8×12	H-200×200×8×12	H-200×200×8×12	H-250×250×9×14		
1F							
鉄 骨	H-200×200×8×12	H-200×200×8×12	H-390×300×10×16	BH-390×300×12×25	H-250×250×9×14		
柱 脚							
ベースプレート	Ⓡ-25×400×250	Ⓡ-25×400×250	Ⓡ-32×350×590	Ⓡ-32×350×590	Ⓡ-25×450×300		
アンカーボルト	4-M24, L=865	4-M24, L=865	6-M30, L=865	6-M30, L=865	4-M24, L=865		
リブプレート	Ⓡ-9	Ⓡ-9	Ⓡ-9	Ⓡ-9	Ⓡ-9		
礎 柱							
b× D	550 × 450	450 × 550	550 × 750	550 × 750	500 × 600		
主 筋	8-D19	8-D19	8-D19	8-D19	8-D19		
帯 筋	□ D10@100	□ D10@100	□ D10@100	□ D10@100	□ D10@100		

間柱断面表

符 号	部 材
P1	H-150×75×5×7
P2	H-198×99×4. 5×7
P3	H-194×150×6×9

共通事項 特記なき限り下記による。

1. 鉄骨材質 SS400
2. 間柱は外壁面に直交に強軸を配置する。

ブレース断面表

符 号	部 材
V1	1-M30 ターンバックル付き
V2	2L-75×75×6
V3	2L-75×75×9
H1	1-M20 ターンバックル付き

共通事項 特記なき限り下記による。

1. 鉄骨材質 SS400

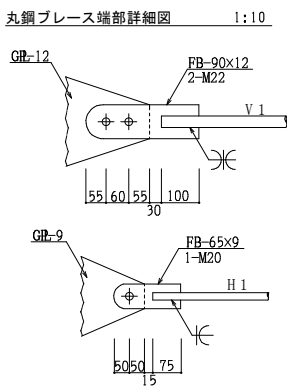
大梁継手表		タイプ－1				タイプ－2						タイプ図		共通事項																															
大梁符号	大梁部材	ウェブボルト	m × n	G. P. t × B × L	①Pw	フランジボルト n1	m × n	SR－ 1	SR－ 2	ウェブボルト n2	SR－ 3		タイプ－ 1	タイプ－ 2	1. 鉄骨材質 H, BH, B : SS400 C : SN490B ② : SN490A C : SSC400																														
								t × B1 × L1	t × b1 × L1		t × b2 × L2	①Pw																																	
	H-198×99×4, 5×7	2-M16	2×1	B-6×130×80	60	4-M16	2×2	B-9×95×245	――	2-M16	2B-6×145×130	60			2. ボルト本数は、継手片側の本数を示す。																														
	H-200×100×5, 5×8	2-M16	2×1	B-6×130×80	60	4-M16	2×2	B-9×95×245	――	2-M16	2B-6×145×130	60			3. ボルト表示記号、標準ピッチ、縁端距離																														
	H-248×124×5×8	3-M16	3×1	B-9×190×80	60	4-M16	2×2	B-6×120×245	2B-6×45×245	2-M16	2B-6×145×160	90	<table border="1"><tr><th></th><th>中ボルト</th><th colspan="3">高力ボルト</th></tr><tr><th>ボルト径</th><td>M12</td><td>M16</td><td>M20</td><td>M22</td></tr><tr><th>記 号</th><td>+</td><td>+</td><td>+</td><td>+</td></tr><tr><th>孔 径</th><td>14</td><td>18</td><td>22</td><td>24</td></tr><tr><th>標準ピッチ</th><td>40</td><td>50</td><td>60</td><td>60</td></tr><tr><th>縁端距離</th><td>30</td><td>35</td><td>40</td><td>40</td></tr></table>		中ボルト	高力ボルト			ボルト径	M12	M16	M20	M22	記 号	+	+	+	+	孔 径	14	18	22	24	標準ピッチ	40	50	60	60	縁端距離	30	35	40	40		
	中ボルト	高力ボルト																																											
ボルト径	M12	M16	M20	M22																																									
記 号	+	+	+	+																																									
孔 径	14	18	22	24																																									
標準ピッチ	40	50	60	60																																									
縁端距離	30	35	40	40																																									
G 1	H-298×149×5, 5×8	3-M20	3×1	B-9×220×90	70	4-M20	2×2	B-9×145×285	2B-9×55×285	3-M20	2B-6×165×220	70			4. 継手部で相互の板厚が異なる場合は、以下によりフィラープレートを挿入する。 フィラープレート厚 T f 継手板厚 T1 > T2 T1 - (T2 + T f) ≤ 1mm																														
	H-300×150×6, 5×9	3-M20	3×1	B-9×220×90	70	4-M20	2×2	B-9×145×285	2B-9×55×285	3-M20	2B-6×165×220	70																																	
G 2	H-346×174×6×9	4-M20	4×1	B-9×290×90	70	6-M20	3×2	B-9×170×405	2B-9×65×405	3-M20	2B-6×165×270	95																																	
	H-350×175×7×11	4-M20	4×1	B-9×290×90	70	6-M20	3×2	B-9×170×405	2B-9×65×405	3-M20	2B-6×165×270	95																																	
	H-396×199×7×11	5-M20	5×1	B-12×320×90	60	6-M20	3×2	B-9×195×405	2B-9×70×405	4-M20	2B-9×165×305	75																																	
G 4	H-400×200×8×13	5-M20	5×1	B-12×320×90	60	6-M20	3×2	B-9×195×405	2B-12×70×405	4-M20	2B-9×165×305	75		<table border="1"><tr><th>b</th><th>g1</th><th>g2</th></tr><tr><td>100</td><td>60</td><td>――</td></tr><tr><td>125</td><td>75</td><td>――</td></tr><tr><td>150</td><td>90</td><td>――</td></tr><tr><td>175</td><td>105</td><td>――</td></tr><tr><td>200</td><td>120</td><td>――</td></tr><tr><td>250</td><td>150</td><td>――</td></tr><tr><td>300</td><td>150</td><td>40</td></tr><tr><td>350</td><td>140</td><td>70</td></tr><tr><td>400</td><td>140</td><td>90</td></tr></table> 300は千鳥配置	b	g1	g2	100	60	――	125	75	――	150	90	――	175	105	――	200	120	――	250	150	――	300	150	40	350	140	70	400	140	90	
b	g1	g2																																											
100	60	――																																											
125	75	――																																											
150	90	――																																											
175	105	――																																											
200	120	――																																											
250	150	――																																											
300	150	40																																											
350	140	70																																											
400	140	90																																											
	H-446×199×8×12	6-M20	6×1	B-12×380×90	60	6-M20	3×2	B-9×195×405	2B-12×70×405	5-M20	2B-9×165×340	65																																	
	H-450×200×9×14	6-M20	6×1	B-12×380×90	60	6-M20	3×2	B-12×195×405	2B-12×70×405	5-M20	2B-9×165×340	65																																	
	H-496×199×9×14	6-M20	6×1	B-12×430×90	70	6-M20	3×2	B-12×195×405	2B-12×70×405	5-M20	2B-9×165×380	75																																	
	H-500×200×10×16	6-M20	6×1	B-12×430×90	70	6-M20	3×2	B-12×195×405	2B-12×70×405	5-M20	2B-9×165×380	75																																	
	H-596×199×10×15	7-M20	7×1	B-12×500×90	70	8-M20	4×2	B-12×195×525	2B-12×70×525	6-M20	2B-9×165×480	80																																	
	H-600×200×11×17	7-M20	7×1	B-12×500×90	70	8-M20	4×2	B-12×195×525	2B-12×70×525	6-M20	2B-9×165×480	80																																	
	H-582×300×12×17	7-M20	7×1	B-16×500×90	70	8-M22	4×4	B-12×295×435	2B-16×105×435	7-M22	2B-9×165×470	65																																	
	H-588×300×12×20	7-M20	7×1	B-16×500×90	70	8-M22	4×4	B-16×295×435	2B-16×105×435	7-M22	2B-9×165×470	65																																	
	H-700×300×13×24	8-M20	8×1	B-16×570×90	70	10-M22	5×4	B-19×295×525	2B-19×105×525	8-M22	2B-12×165×570	70																																	
	H-800×300×14×26	9-M20	9×1	B-16×680×90	75	10-M22	5×4	B-19×295×525	2B-22×105×525	9-M22	2B-12×165×680	75																																	
G 3	BH-1000×220×12×19					10-M20	5×2	B-12×215×645	2B-16×80×645	13-M20	2B-9×165×860	65																																	
G 3 A	BH-1000×220×12×22					12-M20	6×2	B-16×215×765	2B-16×80×765	13-M20	2B-9×165×860	65																																	

梁貫通補強要領		
φ ≤ 0.1Hの場合	0.2H < φ ≤ 0.3Hの場合	
0.1H < φ ≤ 0.2Hの場合	0.3H < φ ≤ 0.4Hの場合	

小梁継手表		タイプ 1 (4)				タイプ 2				タイプ 3						タイプ図			
小梁符号	小梁部材	ウェブボルト	m × n	ピッチφ	G. P.	ウェブボルト	m × n	SP	ピッチφ	G. P.	フランジボルト n1	m × n	SP - 1	SP - 2	ウェブボルト n2	SP - 3	ピッチφ	タイプ 1	タイプ 3
								t × b × L					t × B1 × L1	t × b1 × L1		t × b2 × L2			
B 1	H-200×100×5, 5×8	2-M16	2×1	60	Ⓔ-9						4-M16	2×2	Ⓔ-9×95×245	――	2-M16	2Ⓔ-6×145×130	60		
B 2	H-248×124×5×8	3-M16	3×1	60	Ⓔ-9						4-M16	2×2	Ⓔ-6×120×245	2Ⓔ-6×45×245	2-M16	2Ⓔ-6×145×160	90		
B 3	H-298×149×5, 5×8	3-M20	3×1	70	Ⓔ-9						4-M20	2×2	Ⓔ-9×145×285	2Ⓔ-9×55×285	3-M20	2Ⓔ-6×165×220	70		
	H-300×150×6, 5×9	3-M20	3×1	70	Ⓔ-9						4-M20	2×2	Ⓔ-9×145×285	2Ⓔ-9×55×285	3-M20	2Ⓔ-6×165×220	70		
	H-346×174×6×9	4-M20	4×1	70	Ⓔ-9						6-M20	3×2	Ⓔ-9×170×405	2Ⓔ-9×65×405	3-M20	2Ⓔ-7×165×270	95		
	H-350×175×7×11	4-M20	4×1	70	Ⓔ-9						6-M20	3×2	Ⓔ-9×170×405	2Ⓔ-9×65×405	3-M20	2Ⓔ-7×165×270	95		
	H-396×199×7×11	4-M20	4×1	80	Ⓔ-9						6-M20	3×2	Ⓔ-9×195×405	2Ⓔ-9×70×405	4-M20	2Ⓔ-9×165×320	80		
	H-400×200×8×13	5-M20	5×1	60	Ⓔ-9						6-M20	3×2	Ⓔ-9×195×405	2Ⓔ-12×70×405	4-M20	2Ⓔ-9×165×320	80		
	H-446×199×8×12	5-M20	5×1	70	Ⓔ-9						6-M20	3×2	Ⓔ-9×195×405	2Ⓔ-12×70×405	4-M20	2Ⓔ-9×165×380	100		
	H-450×200×9×14	6-M20	6×1	60	Ⓔ-12						6-M20	3×2	Ⓔ-12×195×405	2Ⓔ-12×70×405	4-M20	2Ⓔ-9×165×380	100		
	H-496×199×9×14	6-M20	6×1	70	Ⓔ-12						6-M20	3×2	Ⓔ-12×195×405	2Ⓔ-16×70×405	4-M20	2Ⓔ-9×165×380	110		
	H-600×200×11×17	7-M20	7×1	70	Ⓔ-12						8-M20	4×2	Ⓔ-12×195×525	2Ⓔ-16×70×525	6-M20	2Ⓔ-9×165×480	80		
	H-582×300×12×17	7-M20	7×1	70	Ⓔ-16						8-M22	4×4	Ⓔ-12×295×435	2Ⓔ-16×105×435	7-M22	2Ⓔ-9×165×470	65		
	H-588×300×12×20	7-M20	7×1	70	Ⓔ-16						8-M22	4×4	Ⓔ-16×295×435	2Ⓔ-16×105×435	7-M22	2Ⓔ-9×165×470	65		
H B 1	H-198×99×4, 5×7	2-M16	2×1	60	Ⓔ-9														
H B 2	H-248×124×5×8	3-M16	3×1	60	Ⓔ-9														
T 1	2C-100×50×20×3, 2	2-M12	1×2	40	Ⓔ-6														

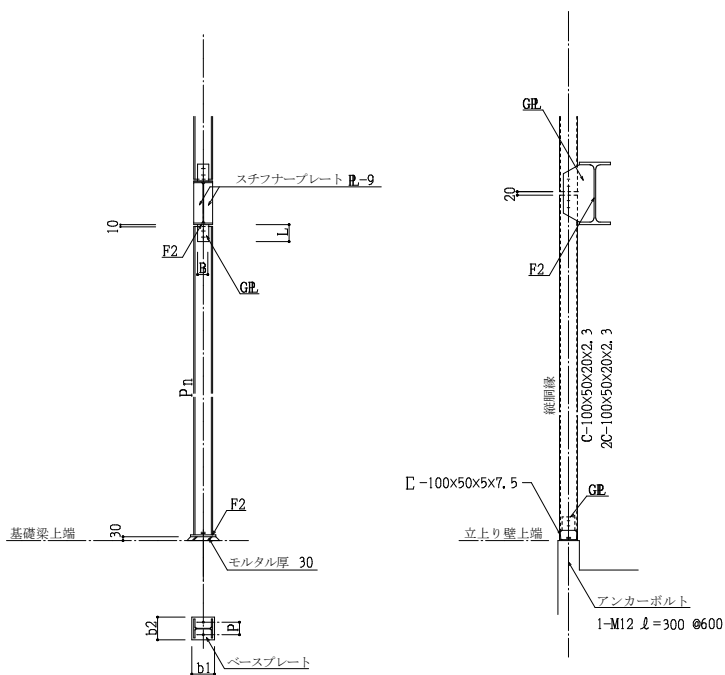
溶接仕口規準図		溶接先規準図									
溶接工法	溶接継手	溶接継手									
		隅肉溶接（F）		部分溶込み溶接（P）				狭間先溶接（N）		消耗ノズル式エレクトロスラグ溶接（CES）	
溶接工法	溶接継手	溶接面		溶接面				溶接面		溶接面	
		板厚		板厚				板厚		板厚	
溶接工法	溶接継手	開先断面		開先断面				開先断面		開先断面	
		板厚		板厚				板厚		板厚	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	溶接面		溶接面				溶接面		溶接面	
		板厚		板厚				板厚		板厚	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	
溶接工法	溶接継手	備考		備考				備考		備考	
		備考		備考				備考		備考	

フレス継手表		材 質		H, E : SS400	
符 号	部 材	H T B	m × n	G, E	P
V 1	1-M30 ターンバックル付き	2-M22	2×1	FB-90×12	60
V 2	2L-75×75×6	4-M16	4×1	E-9	50
V 3	2L-75×75×9	5-M16	5×1	E-12	50
H 1	1-M20 ターンバックル付き	1-M20	1×1	FB-65×9	—



(注) 水平ブレース取付け位置及び詳細は、工作図にて
確認のうえ承認を受けるものとする。

符 号	部 材	H T B	m × n	G. 鋼 t × B × L	アンカーボルト	P	ベースプレート t × b1 × b2
P 1	H-150×75×5×7	2-M16	2×1	鋼-9×105×80	2-M16 ℓ= 400	80	鋼-9×180×180
P 2	H-198×99×4. 5×7	2-M16	2×1	鋼-9×120×80	2-M16 ℓ= 400	100	鋼-9×205×205
P 3	H-194×150×6×9	2-M16	2×1	鋼-9×120×80	2-M16 ℓ= 400	100	鋼-9×205×205
縦胴縁	2C-100×50×20×2. 3	2-M12 (中ボルト)	1×2	鋼-6	2-M12 ℓ= 300	140	IP-6×120×220
縦胴縁	C-100×50×20×2. 3	2-M12 (中ボルト)	1×2	鋼-6	1-M12 ℓ= 300	—	IP-6×80×130



(注) 開口周りで縦胴縁を配する場合は、本図による。

記事	承認	照査	担当	製図	年月	縮尺	工事名称	(仮称) ワンダーグー千代田店新築工事	NO.
					03.06.11	S=1:30	図面名称	溶接標準図・継手標準図(2)	S
									15

